

I 2015 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2015 年度大学評価結果総評】

経済学部商業学科通信教育課程では、2013 年度からカリキュラムの大幅な改革を行い、経営学部の通学課程のカリキュラムと同等の科目内容に改め、経営学・会計学・商学領域の科目を幅広く履修できるように配慮した点は高く評価できる。新カリキュラムの実施から 3 年が経過した 2015 年度から完成年度の 2016 年度にかけて、カリキュラム変更の効果について客観的なデータに基づいて検証し、更なる改善に結び付けることが期待される。

【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

各種履修・成績状況や学生アンケート等のデータ蓄積は順調に進んでおり、通信教育学務委員会を通じて、教授会に報告されている。一方で、その検証についてはどのような方法が有意であるか、過去の事例調査を行うなど、検討を進めている。望ましい検証のあり方（ベストプラクティスは何か等）については、通信教育部事務局を通じて大学評価室事務局に相談した際に、自身で検討することと回答があり、これについて可能な限り大学評価室委員会の期待に応えられる検証が実現できるよう努力したい。通信教育課程の学部内調整（経済学部との連携）は、各学科の通信教育課程主任・学務委員を通じて、一層の連携を図っていきたい。

II 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・経営学部執行部（学部長 1 名、教授会主任 1 名、教授会プログラム主任 1 名、教授会副主任 1 名、通信教育課程主任 1 名）

通信教育課程主任が執行部会議に全て関わることを通じて、通学課程との整合性を実現している。

- ・教授会（原則として月 1 回）
- ・教学問題委員会（原則として月 1 回）
- ・通信教育学務委員会/教養教育部会（原則として月 1 回）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学通信教育部学則
- ・通信教育部学則に関する規程
- ・通信教育関係学部長会議規程
- ・通信教育学務委員会規程
- ・通信教育教養教育部会細則

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。

大学通信教育設置基準の附則 3「この省令施行の際、現に通信教育を開設している大学の組織、編成、施設及び設備で、この省令の施行の日前に係るものについては、当分の間、なお従前の例によることができる」に拠り、通信教育課程専属の専任教員は配置していないが、教科担当者に必ず専任教員を配置し、また通学課程の教員が通信教育課程も併せ行う形で教育を行っていることで、カリキュラムにふさわしい教員組織を備えていると判断している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・大学通信教育設置基準

2015 年度専任教員数一覧

(2015 年 5 月 1 日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計
商業	25	2	0	0	27

※学校基本調査の教員数を記載。実際の所属教員数とは一致しない場合あり。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、教育を実施する上における、必要な役割分担、責任の所在については明確な規定があり適正に実施されている。教員組織に関しては、通信教育課程に専任教員を配置していないが、教科担当者に必ず学部の専任教員を配置しており適切である。通学課程の教員が通信教育課程の授業も併せて行うことで、事実上、カリキュラムにふさわしい教員組織を備えており適切である。

2 教育課程・教育内容

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教育課程の編成・実施方針】

通学課程と同様であることを原則としているが、多様な学習ニーズを持つ通信教育部の学生に配慮し、通信教育部独自のカリキュラムを編成する必要がある。併せて、メディア授業をはじめ、地方・週末スクーリング等、社会人学生の利便性向上を目的とした授業形態の工夫を行うことが求められる。

商業学科における経営専門科目を中心としたカリキュラムは、簿記・会計学、経営管理、経済史、統計学、経済・社会政策、人的資源管理、商法、民法、労働法などを幅広く網羅したものであり、通学課程（本学経営学部）のカリキュラムとほぼ同等の編成となっている。

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性をどのように確保していますか。 A B C

(～400 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修への配慮が行われているか概要を記入。

2013 年度から大幅なカリキュラム改革を実施し、できる限り通学課程のカリキュラムと同等の科目内容に改め、経営学・会計学・商学に関連する領域を広く履修できるように配慮した。また、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、通学課程と同一水準の教育を施し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置した。2 単位構成の科目を原則として、より柔軟な履修体系としたことも学生から好評を得ている。こうした改革により、日本の通信教育課程において、幅広い分野にわたって体系的な教育を実現した学科の 1 つとなっている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・商業学科カリキュラム

2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。 A B C

(～400 字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

通信教育課程は、通信学習およびスクーリングの 2 つの形態で授業を実施しているが、特にスクーリングは、昼間 6 日間の夏・冬期スクーリング、夜間 15 週の春期・秋期スクーリング、週末 3 日間の週末スクーリング、全国主要 5 都市での地方スクーリング (3 日間)、これにインターネットを利用したメディアスクーリング、ゴールデンウィーク中の 3 日間に

行うGWスクーリングとその形態は多様である。また、夏期スクーリングでは、より社会人が受講しやすいよう18:30～の時間帯に授業を開講し、そのニーズに応じている。そして、前年度に引き継ぎ、メディアスクーリングの開講科目を増やす努力をしており、通信教育課程全体（他学科公開科目を含む）として67科目（2016年度）を開講している。これら多様なスクーリングは、さまざまなニーズを持つ多くの学生にとって、選択肢の幅を広げるのみならず、能力育成の観点からも大きなメリットとなっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度スクーリング開講一覧

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・2015年度から新たに、在学年数の長い学生に対し、卒業計画書の提出を求め、それに対し指導を行った。	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・カリキュラム変更等を中心とした通信教育部改革後4年目を迎える。いわば完成年度であることから、通信教育部改革内容が適切であったか、改善が必要な場合どのような点が挙げられるのか等、引き続き検討を進めたい。

【この基準の大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程において、2013年からの大幅なカリキュラム改革によって、学生に提供するカリキュラムの幅を広げ、さらには通学課程と同一水準の教育レベルを提供できるようにしたことは評価できる。カリキュラムの順次性・体系性は十分確保されており適切である。通信教育課程は通信学習とスクーリングからなっており、スクーリングに関してはインターネットを利用したメディアスクーリング開講科目を増やすなどの努力が払われており評価できる。また、社会人のニーズに則した開講時間を提供するなど、さまざまなニーズを持つ学生への選択肢を広げるなどの対策は高く評価できる。2015年度から、在学年数の長い学生に対して卒業計画書の提出を求めたことも、きめ細やかな指導の一環であり評価できる。

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

A B C

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・Web学習相談制度
- ・ステップ型の学習ガイダンス（1ステップ：職員による制度説明・2ステップ：卒業生による経験談他・3ステップ：教員による学習指導他）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

A B C

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

通信学習を進めるにあたり、生じた疑問点に質問することが可能な「学習質疑」制度があり、直接担当教員の指導を受けることが可能となっている。また、スクーリング時においてもオフィスアワーを設置している。夏期・冬期スクーリングに加え、全国で実施している地方スクーリングにおいて「通教生のつどい」を実施し、学生間のみならずこれに参加する教員・学生間での情報交換も可能となる場の提供も行っている。直近の「通教生のつどい」（冬期スクーリングにて開催）には、約100名の学生および教員が参加し、学習意欲向上の一助にもなっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・学習サポート_学習のしおり2016より抜粋

3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【検証体制および方法】 ※簡条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。 ・ 質保証委員会を主催する教授会執行部でもある通信教育課程主任と、学務委員による全シラバスチェック	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 特になし	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【検証体制および方法】 ※簡条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 ・ 授業改善アンケート質問事項「授業の運営が適切であった」等で確認	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 特になし	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
【確認体制および方法】 ※簡条書きで記入。 ・ 成績評価方法と単位認定の内容の明記および遂行 ・ 通信学習_設題総覧「設題解答にあたっての解説・注意等」 ・ シラバス「成績評価基準」 ・ スクーリング_シラバス「成績評価基準」、「講義内容」「予習範囲」等単位認定への道筋を記載	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ Web シラバス記載のシラバス	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
（～400 字程度まで） ※取り組み概要を記入。 編入学者の単位認定は、2 年次・3 年次および通学課程からの 4 年次編入、学士入学者ごとに認定範囲を定めており、併せてスクーリング単位についても一定の範囲で認定を行っている。また、在学中に放送大学で修得した単位を最大 10 単位まで本学のスクーリング単位として認定する制度もある。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 放送大学単位認定_学習のしおり 2016 より抜粋	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、簡条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・ 特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※（1）～（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について簡条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 2018 年度に向けて通学課程では学年歴の見直しが検討されているので、通信教育課程でもその議論に併せて教育方法の検討をしていく。 ・ これまで通信教育部生には統合認証 ID が付与されておらず、それに伴い各学生は授業支援システム等を利用できない状況にある。2017 年度に向けて、統合認証 ID の付与に関して総合情報センターと検討を重ねており、実現すれば教育効果の大幅な向上が期待できる。

【この基準の大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、Web やステップ型の学習ガイダンスによって、履修指導、学習指導が適切に実施されている。オフィスアワーに加え「通教生のつどい」における、学生と教員との情報交換はきめ細やかな学習指導として高く評価できる。シラバスは、通信教育課程主任と学務委員によってチェックされており、シラバスに沿った授業が行われているかについては、授業改善アンケートによって確認されている。成績評価方法と単位認定についてはシラバス等に明記されている。編入学者の単位認定は、各編入経路別に認定範囲を定めており適切である。

4 成果

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学位授与方針】	
<p>「自由と進歩」の建学の精神を理解し、年齢に関係なく学問的関心を持ち続け、何事にも挑戦し続ける姿勢を持つことを前提とし、人文・社会・自然などに関する幅広い教養と、通学課程と同一水準の、時代の先端を行く専門分野の学識を取得し、生涯学習社会において、自立的に自由な発想と柔軟な判断が出来る能力を修得することを学位授与の方針とする。</p> <p>商業学科においては、経営学、会計学、商学及び経済学の専門分野を網羅した専門科目について、スクーリングなどを通して履修し、所定の科目を含め124単位を修得した者に対し、学位を授与している。</p>	
4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
①学生の学習成果を測定していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入(習熟度達成テストや各種アンケートの活用状況等)。</p> <p>通信科目はレポート添削に加え、単位修得試験(筆記試験)によって一連の学習の最終的な到達点を測定している。スクーリングでは、授業の最終日に実施する最終試験(筆記試験)でその成果を測っている。また、メディアスクーリングでは、中間レポートを課している科目も多くあり、学習効果の向上を心掛けている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②成績分布、進級などの状況を学部(学科)単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・進級判定は、卒業判定と併せて教授会審議事項</p> <p>・成績分布/レポート数/単位修得試験者数/スクーリング受講者数等は、学務委員会を通じて教授会に報告</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等(必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・引き続き成績分布等のデータ蓄積を行う。

【この基準の大学評価】

<p>経済学部商業学科通信教育課程における学生の学習成果の測定は、レポート添削による評価や、スクーリングの最終授業における筆記試験で適正に実施されている。成績分布、レポート数、単位修得試験数、スクーリング受講者数などは、学務委員会を通じて教授会に報告されており、適正に検証されている。</p>

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学生の受け入れ方針】
<p>「社会に開かれた大学」として、高等教育の門戸を広く開放することは、通信教育課程の使命であると言える。このため、学が意欲のある幅広い年齢層に対し、「いつでも、どこでも」学ぶことが出来る環境を整備することが必要である。その上で、高等教育機関であることを大前提として、学問に真摯に取り組み、生涯学習社会にあって、自己の知識や能力を</p>

社会に還元する意欲を持った人材を受け入れることを基本方針としている。	
5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input checked="" type="checkbox"/>
<p>(～200 字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。</p> <p>定員充足のあり方については、通信教育課程全体にかかわる大きな課題である。文部科学省担当部署も本件について十分認識していることを確認して、学務部教学企画課と連携を図り、他大学の事例をはじめ、情報収集に力を入れ、引き続き改善に向けた検討をしたい。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学通信教育設置基準 	
5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。	
①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。	A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p>【検証体制および検証方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志願者数/合格者数/入学者数等の関連データは、学務委員会を通じて教授会報告 ・志願者選考等は通信教育課程主任/学務委員が実施・検証（通読判定と呼んでいる） <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 特記事項 (任意項目)

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・2013 年度の通信教育部改革をきっかけとしたメディアスクーリングの拡充が順調に進行していることもあり、在籍者数が下げ止まり、現在は増加傾向となっている。引き続き、本傾向の維持できるよう努力したい。 	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

<ul style="list-style-type: none"> ・通信教育部の定員充足のあり方については、通学課程の設置・認可、アフターケア等への影響もあるため、引き続き学務部教学企画課と密に連携をとる必要がある。

【この基準の大学評価】

<p>経済学部商業学科通信教育課程では、定員充足のあり方については大きな問題であり、今後も学務部教学企画課と連携を図りながら、引き続き改善に努めていくとのことであり、今後の成果に期待したい。</p> <p>学生募集および入学者選抜については、学務委員会を通じて教授会に報告されており、適正に実施されている。</p> <p>また、志願者選考等は通信教育課程主任、学務委員が実施・検証しており、適切である。</p>

6 学生支援

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。	
①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業判定は、進級判定と併せて教授会審議事項 ・休学・退学は、学生からの申請に基づき教授会審議事項 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、卒業・卒業保留・留年者および休・退学者は教授会審議事項であり、適正に把握されている。

7 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。	
①質保証に関する活動は適切に行われていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【2015年度の質保証に関する活動概要】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信教育課程の学事事項は、通信教育学務委員会で審議事項 ・必要に応じて、教授会の審議・報告事項 ・通信教育学務委員会の委員のうち、1名はFDアドバイザー・ボードの構成員 ・通信教育部事務部管理職は、FDアドバイザー・ボードの構成員 ・シラバスの第三者確認は、質保証委員会を主催する教授会執行部のメンバーでもある通信教育課程主任と、学務委員で実施 ・通信教育課程主任/学務委員設置による運営責任の明確化した組織体制 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程の質保証に関しては、通信教育学務委員会、教授会を通じて適正に行われている。

【大学評価総評】

<p>経済学部商業学科通信教育課程における 2015 年度大学評価委員会の大学評価報告書では、2013 年度からの通信教育部の改革を評価するとともに、2016 年度からのカリキュラム変更の効果について客観的データに基づいて検証し、さらなる改善に結びつけることが期待されていた。自己点検・評価シートの記述によれば、多様なスクーリングは学生に好評で、在籍者数も下げ止まったとのことであり、今後は在籍者数の動向を数値で提示するとともに定員充足に向けてのさらなる検証が期待される。</p>
